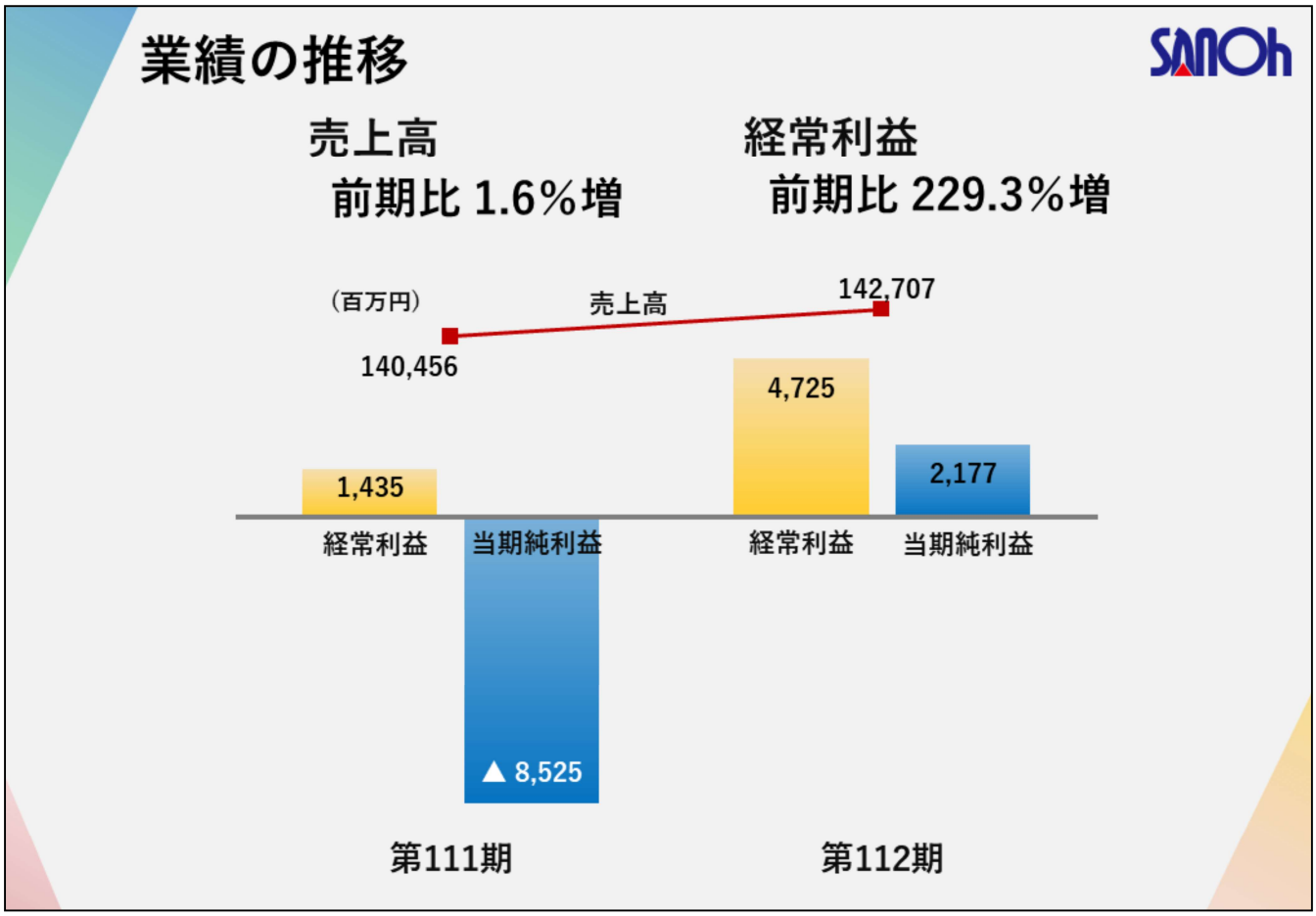

SANOH
第112期
定時株主総会
2020年6月22日(月)
三櫻工業株式会社



報告事項の「第112期　事業報告、連結計算書類および計算書類の内容」につきまして、ご報告いたします。



当期の当社グループの売上高は前期比1.6%増の1,427億7百万円、
営業利益は前期比163.8%増の54億52百万円となりました。

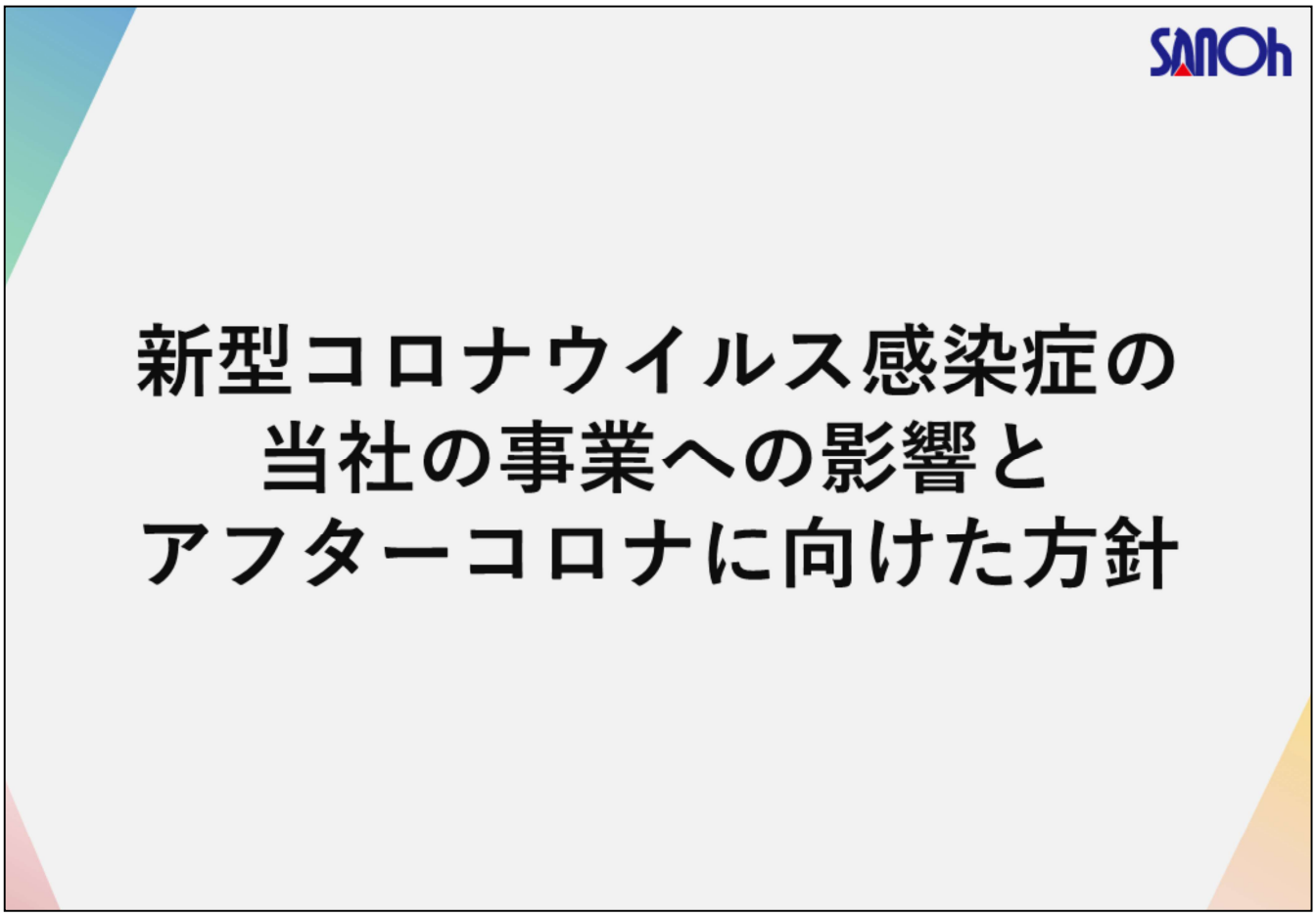
中国や米国での新規量産品の立ち上がりが寄与したことに加えて、
日本国内、欧州を中心に固定費の削減に努めたことにより、
全体で増収・増益となりました。

経常利益についても、営業利益の増益により前期比229.3%増の
47億25百万円となりました。

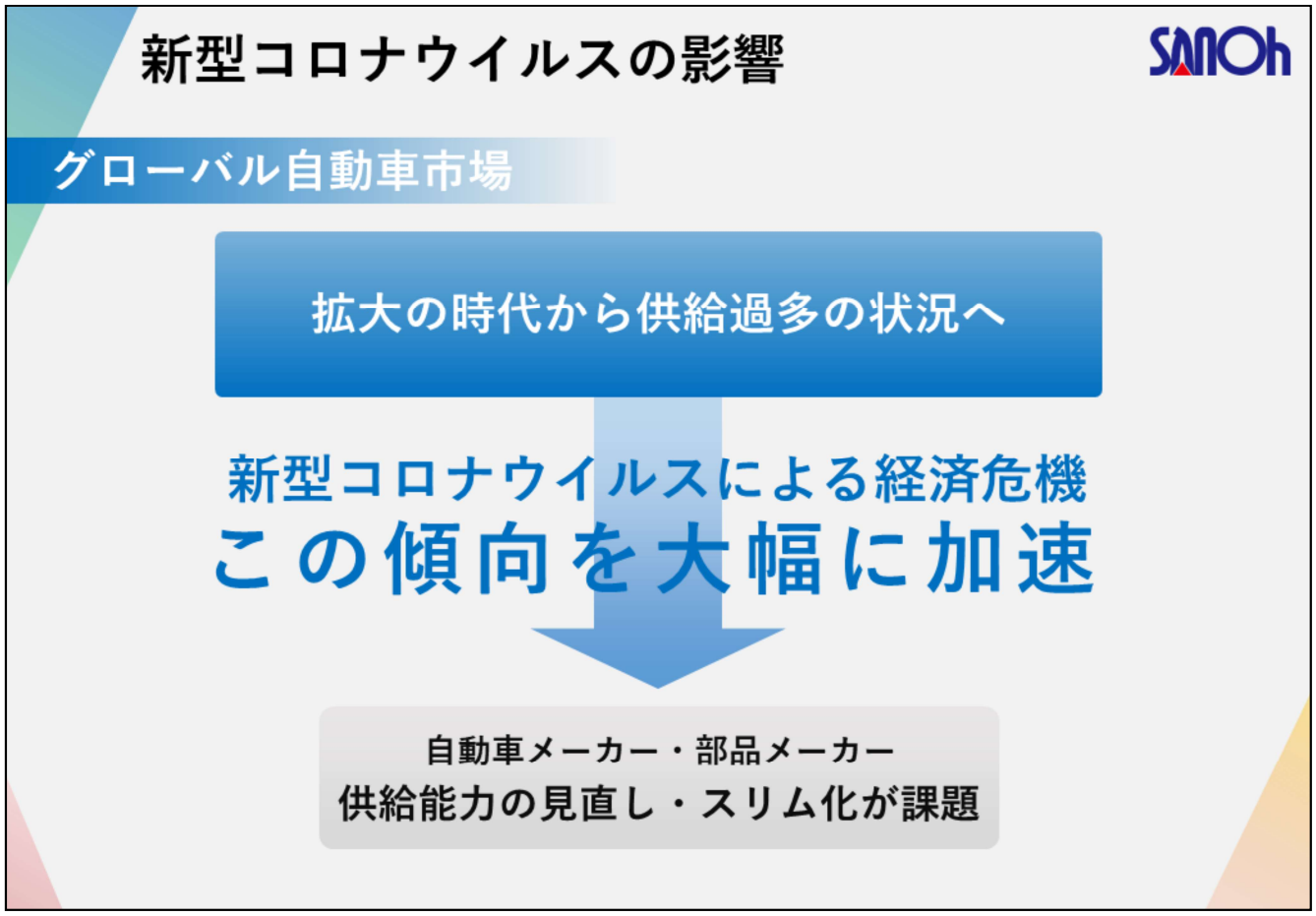
親会社株主に帰属する当期純利益は、所有不動産売却に伴う
特別利益もあり、21億77百万円となりました。



事業報告のその他の事項、連結および当社単体の計算書類の内容につきましては、招集ご通知20ページから34ページに記載のとおりでございます。



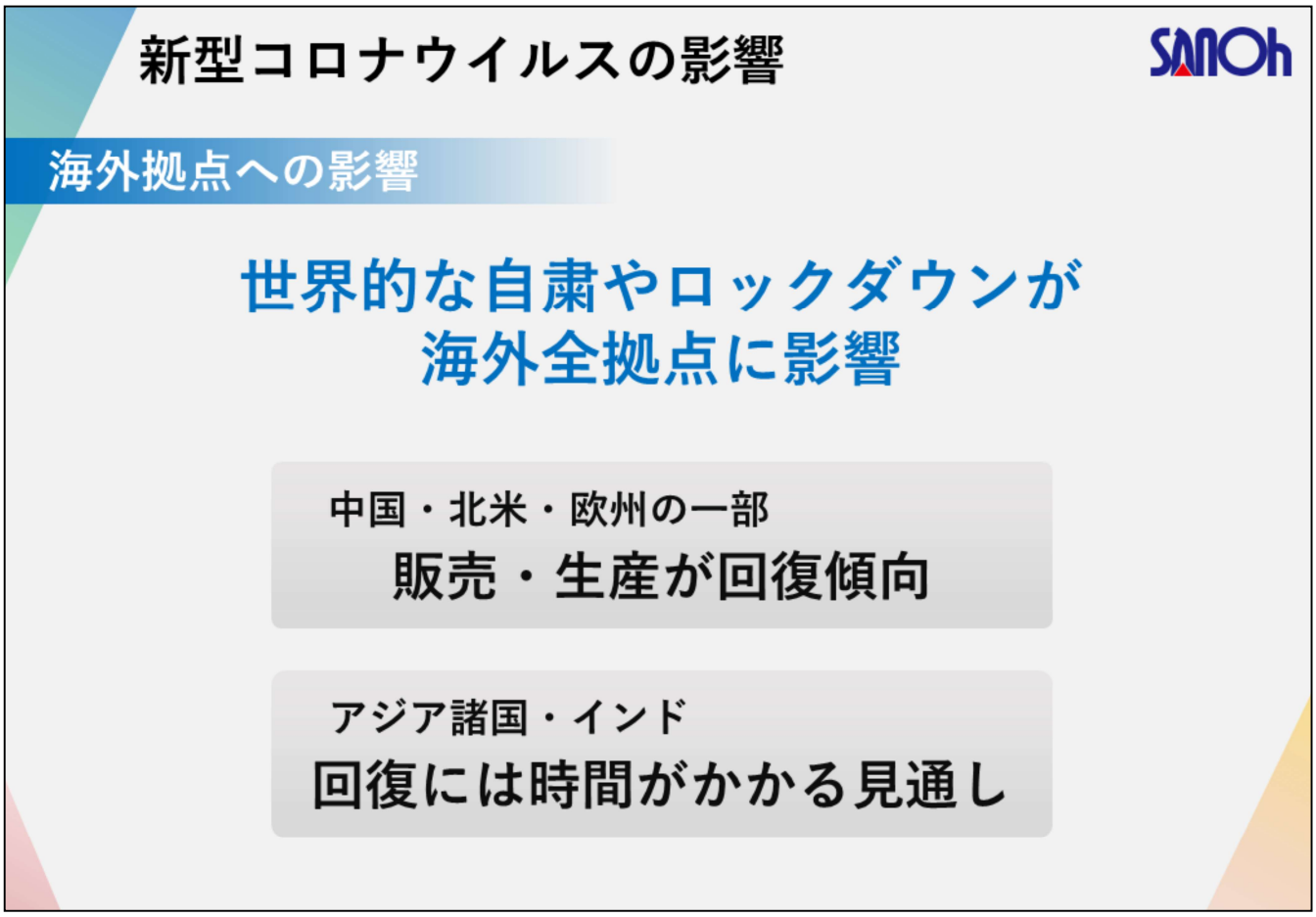
対処すべき課題として、新型コロナウイルス感染症の当社事業への影響と、「アフターコロナ」にむけた方針について、ご説明いたします。



世界の自動車販売台数は2年連続で前年度実績を割り込むなど、
グローバル自動車市場は、リーマン・ショック以後続いてきた
拡大の時代から供給過多の状況へと移り始めております。

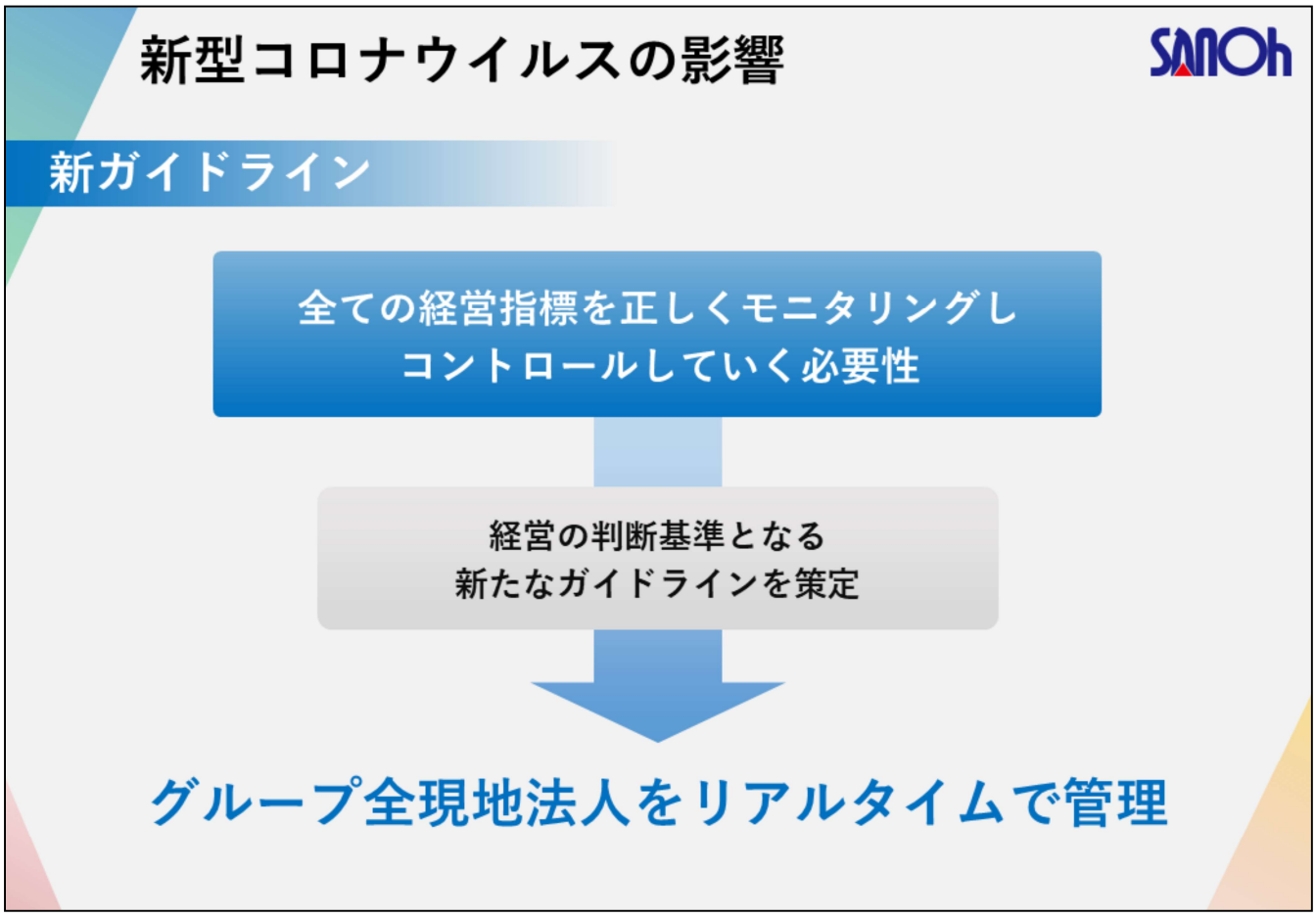
自動車メーカーや部品メーカーは、供給能力の見直し・スリム化を
喫緊の課題として求められていました。

新型コロナウイルスによる経済危機は、この傾向を大幅に加速させ
るものです。



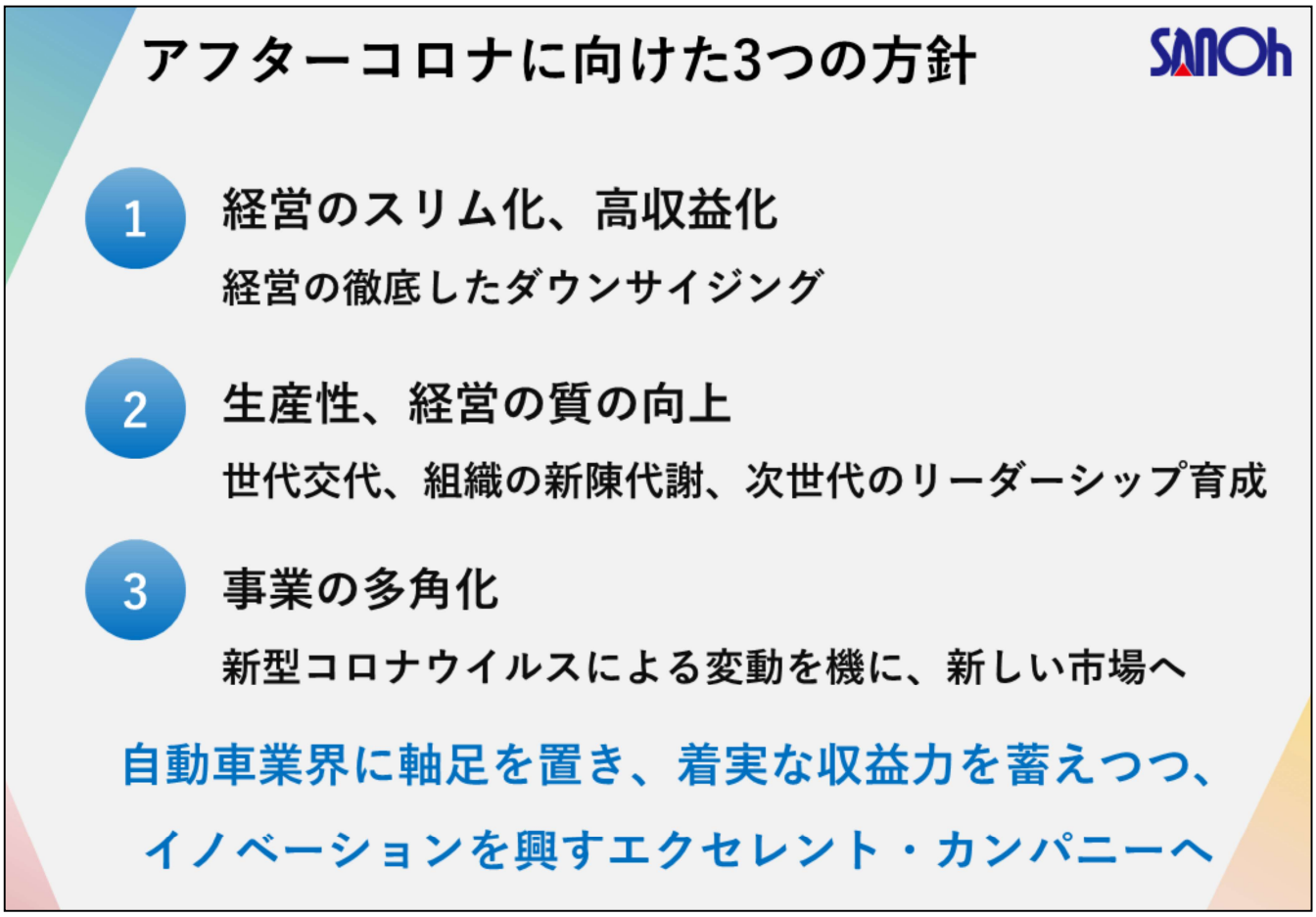
当社グループにおいては、海外の全拠点が、外出自粛やロックダウンにより大きな影響を受けていますが、その影響には地域差がございます。

中国や北米、一部の欧州諸国においては、販売・生産が回復しつつありますが、アジア諸国やインドにおいては、需要の回復が遅れています。



当社グループでは、経営の判断基準となる新たなガイドラインを策定いたしました。

このガイドラインに基づき、キャッシュ管理はもちろんのこと、仕入、製造、在庫、人件費、各国における経済リスク、社員の健康・安全管理面などについて、当社グループ全現地法人の経営トップに対するヒアリングを行い、リアルタイムで管理する活動に努めております。



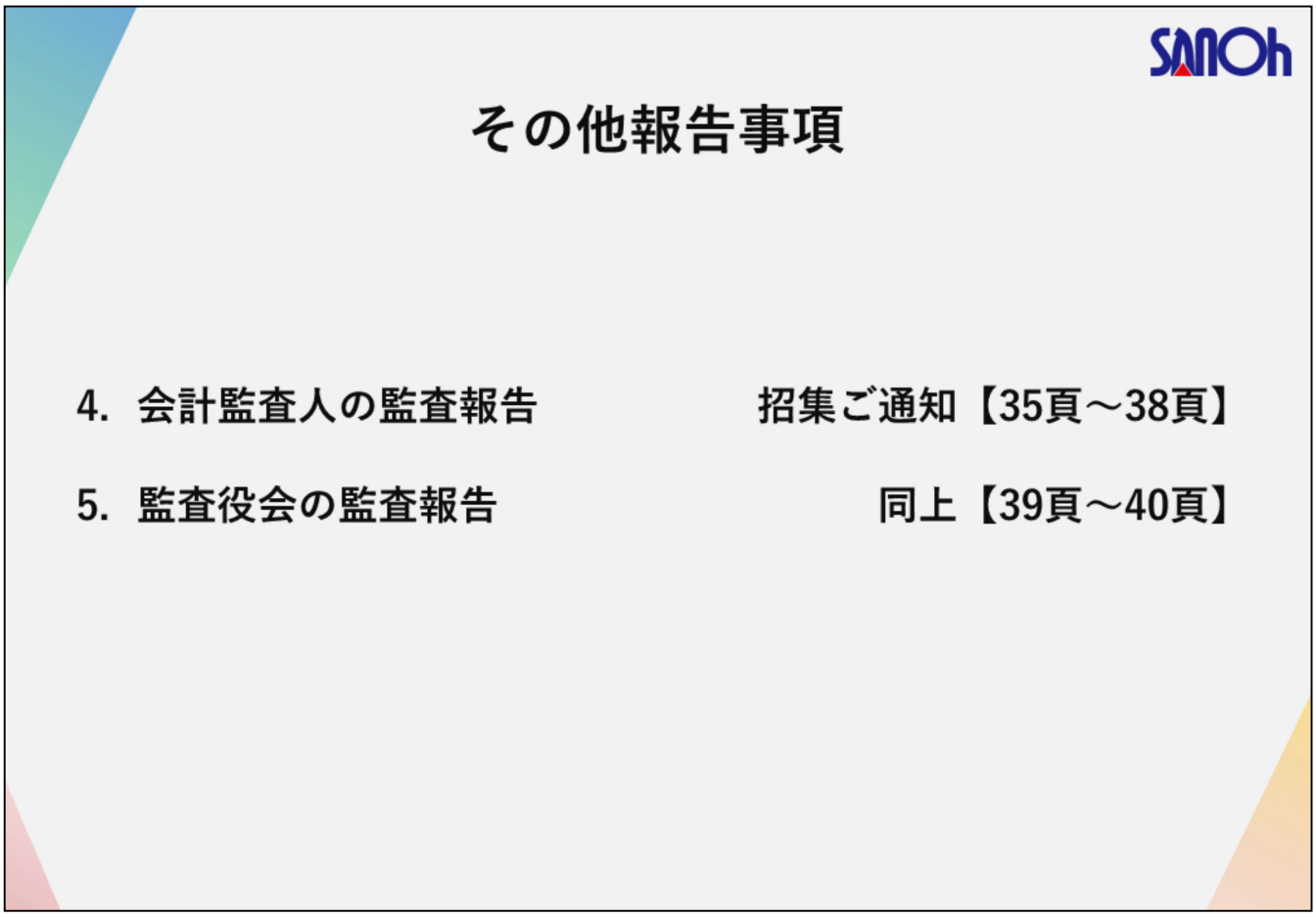
アフターコロナの世界に向けて、3つの方針をご説明いたします。

1つ目は、経営のスリム化、高収益化です。
経営の徹底したダウンサイジングと資金の手元流動性の向上を行い、売上減の世の中でも最高益を更新し続けることを目指します。

2つ目は、生産性、経営の質の向上です。
今回の危機は世代交代、組織の新陳代謝、次世代のリーダーシップ育成のチャンスでもあります。
既に世界各地で経営の現地化が進んでおり、次世代のナショナル・リーダーたちが育ってきています。

3つ目は、事業の多角化です。
この新型コロナウイルスによる大変動を機に、色々なものが変わり、新しい市場が生まれます。自動車業界に軸足を置き、着実な収益力を蓄えつつ、イノベーションを興すエクセレント・カンパニーとして生まれ変わってまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。



なお、会計監査人および監査役会の監査報告につきましては、連結計算書類の監査結果を含め、招集ご通知35ページから40ページに記載のとおりでございます。

以上をもちまして、報告事項の報告を終了いたします。


SANOh